

空飛ぶ絨毯？

違うの。これはね、ずうっと昔のエプロンなんだよ。
100年も前に、私と同じ日本の女の子が作ったんだって。
作った女の子はその頃、16歳だったけれど
それからお母さんになって、おばあちゃんになって
今はもう、この世界のどこにもいない。

どんな女の子だったのかな。
針と、糸とで、100年先まで時を越えていく
こんなにステキなエプロンを作った女の子。
きっとオシャレでカワイイ子だったよね。

もしも、私に魔法が使えるら
時を越えてあなたを探しに行けるのに。
あなたのエプロンが100年先の未来まで届いたように
この空の先は、あなたが見上げた頃の青空に
今ならまっすぐにつながっているような
そんな気がするから。



KAZUNOBU SHOJI

アミューズミュージアム開館2周年記念特別展

LOVE! Handmade

～針と糸が織りなす世界～

100年前の日本の女の子を思い浮かべてみるができますか？
それも、華族のお嬢様ではなく、昼間は畑を耕しているような、大多数の一般庶民の女の子の暮らしを…。普段着は？ 働き着は？ 寝るときは？ 髪型は？
歴史に決して名前の残らない、市井に生きた庶民たちの暮らしぶりというのは、意外なほど分からないものです。今展でご紹介する「南部菱刺し前かけ」。この美しい刺し子の前かけは、厳しい雪国、青森県南部地方の農村に暮らした女性たちが、当時は貴重品だった毛糸を、麻布の上に一針一針刺して仕上げた、ハレの日のためのお洒落アイテムでした。決して豊かとは言えない暮らしの中で、創意工夫の果てに生み出された手仕事の粋。その美しさは時を越え、どんな歴史書よりも彼女たちの心を今に伝えるようです。



消費文化の対極のアート

＜重要有形民俗文化財 南部菱刺し前かけ＞

2011年 2012年
10月14日(金)～4月1日(日)

一般1,000円/毎週月曜休館
開館時間 10:00～18:00



TEL 03-5806-1181 東京都台東区浅草2-34-3
<http://www.amusemuseum.com>

布文化と浮世絵の美術館

アミューズミュージアム